

印刷物の読者には様々な人がいます。その特性を把握することが大切です。

### (1) 視覚障害のある人

#### 特性

全く見えない人と少し見える人（ロービジョン）がいます。  
 少し見える人（ロービジョン）には、ぼんやりとしか見えない、中心だけが見えない、見える範囲が狭い、まぶしく見えるなどの人がいて、見え方が一人ひとり違います。

#### 配慮事項

- 書体は、ゴシック体やUDフォントなどを選びましょう。
- イラストや写真を取り入れる場合、説明文を付けましょう。

**読者の特性にあわせて、  
 以下の対応を行うことが望ましいです。**

#### 拡大文字版

- 拡大印刷や白黒反転をしたものがあるとなおよいでしょう。  
 (例/A4判の場合14ポイントで太字)

#### WEB版

- 音声で読み上げるソフトを使用してWEBページを利用する視覚障害のある人が増えています。
- 耳で聞いたときに、わかりやすい文章にしましょう。

#### 点字版

- 点字を読むことができる人は、視覚障害のある人のうち約10%です。
- 点字表示に関するJIS規格(JIS T0921)があります。
- 必要な場合は、点字版を作成しましょう。

#### 音声版

- 耳で聞いたときに、わかりやすい文章にしましょう。
- イラストや写真などには説明を加えましょう。

### (2) 色弱者(色覚に特性のある人)



#### 特性

色覚は、人によって異なります。ここでは、一番多い色覚タイプを「一般色覚者」と呼び、一般色覚者以外のタイプを、色への配慮が不十分な社会における弱者として「色弱者」と呼びます。

色弱者は日本では、男性の20人に1人、女性の500人に1人の割合で、日本人全体では約320万人いるといわれています。

## 色覚のタイプによる色の見え方

※色覚シミュレーション画像は強度の色弱者の色の見わけにくさを模擬したものであり、実際の色の見え方を再現したものではありません。また色の見え方には個人差があります。

色覚タイプ		色覚シミュレーション画像	頻度(男性)	色の感じ方
C型	一般色覚		約95%	
P型	赤の感度が低い	強度	約1.5%	<ul style="list-style-type: none"> <li>○赤と緑や茶が同じ色に見えるやすい。</li> <li>○明度差の小さい色同士が同じ色に見えるやすい。</li> <li>○淡い色(彩度の低い色)同士の色が同じ色に見えるやすい。</li> <li>○青と黄色は識別しやすい。</li> </ul> <p>〈P型とD型の大きな違い〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○P型は赤が暗く見えて、黒や茶との区別が付きにくい。</li> </ul>
		弱度		
D型	緑の感度が低い	強度	約3.5%	
		弱度		
T型	青の感度が低い		約0.001%	<ul style="list-style-type: none"> <li>○青味の識別が難しい場合があり、青と緑が同じ色に見えるやすい。</li> </ul>

※上の図は、色覚のタイプ別に、どの色とどの色が似て見えてしまうかを示しています。P型・D型の人は、赤と緑や黒(こげ茶)、あるいはオレンジと黄緑や青と紫などの組合せが似て見えていることがわかります。

出典：NPO法人 カラーユニバーサルデザイン機構(CUDO)

※このガイドラインでは、監修を行うCUDOの色覚タイプ(P型・D型・T型)の呼称を使用しています。

#### 配慮事項

- 色の見え方は一様でないことを意識しましょう。
- 色の組み合わせに注意しましょう。
- 重要な情報は色以外の手がかりも書いて、情報が伝わるようにしましょう。
- 色による情報伝達では伝わらない人もいることに注意しましょう。

### (3) 高齢者

#### 特性

個人差はありますが、40歳代から視力の変化を自覚するようになります。また、色覚の機能も加齢とともに低下します。黄系や青系の感度が鈍くなり、コントラストに対する感度も低下します。白内障では薄暗く見えたりまぶしく見えたりします。

#### 配慮事項

- 外来語や略語の多用は避けましょう。
- 一般的ではない外来語や略語には、注釈を付けましょう。

### (4) 聴覚障害のある人

#### 特性

音声言語を習得する前に聞こえない、または聞こえにくくなった人(ろう者、難聴者)と、習得した後に聞こえない、または聞こえにくくなった人(難聴者、中途失聴者)がいます。

音声言語を習得する前に聞こえない、または聞こえにくくなった人で手話を母語とした場合、個人差はありますが長い文章や、複雑な文章が苦手な人がいます。

#### 配慮事項

- 遠回しな言い方や二重否定は避けましょう。

### (5) 知的障害のある人

#### 特性

知的発達障害の障害です。様々な制限が生じ、複雑な表現や難しい漢字等を理解することが苦手な人もいます。特性は一人ひとり異なります。

#### 配慮事項

- シンプルなレイアウトにしましょう。

## (6) 発達障害のある人

### 特性

独特の考え方や感じ方をするため、物事の見え方や捉え方が違ったりすることがあります。

### 配慮事項

○ 視覚的な情報(イラストや写真)がわかりやすい場合があります。

## (7) 子ども

### 特性

発達段階にもよりますが、複雑な表現や対象年齢でまだ教えられていない漢字などは理解することが困難です。

### 配慮事項

- イラストや写真を取り入れ、やさしくわかりやすい言葉で表現しましょう。
- 難しい漢字を使う場合は、ひらがなのルビをつけましょう。

## (8) 外国人

### 特性

日本語を母語としないため、複雑な表現や難しい漢字などがわかりにくいことがあります。

### 配慮事項

- イラストや写真を取り入れ、やさしくわかりやすい言葉で表現しましょう。
- 多言語による情報発信や「やさしい日本語」(\*)の使用に努めましょう。  
※「やさしい日本語」とは、通常の日本語よりも簡単で、外国人にも分かりやすく変換した日本語のこと。

## 共通性の高い配慮事項

- できるだけ大きな文字で作成しましょう。  
(例/A4判の場合、12~14ポイント)
- 拡大印刷したものを用意しましょう。(例/A4判→A3判)
- 具体的に短く要点を書きましょう。
- 読みにくい漢字を使うときは、ひらがなのルビをつけましょう。
- 抽象的な表現や曖昧な表現は避けましょう。
- イラストや写真を取り入れましょう。
- 文字と背景は明るさの差がある組み合わせ(明るい背景に暗い文字など)にしましょう。
- 色の3要素を考慮した配色にしましょう。(P13参照)
- 問い合わせ先には電話番号だけでなく、FAX番号やメールアドレスを併記しましょう。